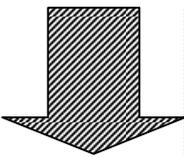


相乗積（粗利ミックス、マージン・ミックス、値入ミックスなどと呼ばれる）

① 相乗積 = ② 粗利率 × ③ 売上構成比

商品	①粗利率	②売上構成比	③ 相乗積 計算式
A	40%	30%	40%×0.3(30%)=12%
B	30%	30%	30%×0.3(30%)= 9%
C	10%	40%	10%×0.4(40%)= 4%
合計		100%	25%

相乗積は粗利率×売上構成比で求められる。商品 A、B、C をそれぞれ粗利率 40%、30%、10%、売上構成比 30%、30%、40%とした時の粗利率はそれぞれの相乗積 12%、9%、4%の合計である 25%となる。



全体の粗利率を上げるためには、個々の粗利率を上げるか、粗利率の高い商品の売上構成比を上げればよい。ここでは粗利率の高い A 商品の売上構成比を 30%から 40%に引き上げ、その分、粗利率の低い C 商品の売上構成比を 40%から 30%に引き下げてみる。全体の粗利率は 25%から 3%上がり 28%になる。

商品	①粗利率	②売上構成比	③ 相乗積 計算式
A	40%	40%	40%×0.4(40%)=16%(+4%)
B	30%	30%	30%×0.3(30%)= 9%
C	10%	30%	10%×0.3(30%)= 3%(▲1%)
合計		100%	28%(+3%)

A 相乗積 = A 粗利率 × A 売上構成比

$$= \frac{A \text{ 粗利高}}{A \text{ 売上高}} \times \frac{A \text{ 売上高}}{\text{売上高合}} = \frac{A \text{ 粗利高}}{\text{売上高合計}}$$

商品 A の相乗積の式を展開すると

「売上高合計に対して商品 A がいくらの粗利高を稼ぎだしているかという比率」を意味していることが分かる。

売上高合計 1000万円

商品A 粗利高	300万円×0.4 =120万円
商品B 粗利高	300万円×0.3 =90万円
商品C 粗利高	400万円×0.1 =40万円



	400万円×0.4 = 160万円 (+40万円)
	300万円×0.3 =90万円
	300万円×0.1 =30万円 (▲10万円)

売上高合計を 1000 万円として商品 A、B、C が稼ぎ出している粗利高を計算するとそれぞれ 120 万円、90 万円、40 万円、合計 250 万円となる。売上高合計 1000 万円に対し、それぞれ 12%、9%、4%となり、合計すると 25%となる。

商品 A の売上構成比を 40%、商品 C の売上構成比を 30%に変更すると、商品 A、B、C が稼ぎ出す粗利高はそれぞれ 160 万円、90 万円、30 万円、合計 280 万円となり、30 万円増える。売上合計 1000 万円に対してそれぞれ 16%、9%、3%、合計 28%となり、変更前と比べて 3%高くなる。これが相乗積＝粗利ミックスが意味するところである。